令和３年度第５回　第三吾嬬小学校　校長「語らいサロン」

テーマ『学校（校長）に聞いてみたい』
『学校（校長）に伝えたい』

令和４年２月１９日（土）9:00-9:55
Zoomミーティングによるオンライン開催
参加者　保護者７名

川中子　それでは、９時になりましたので、今年度第５回目の語らいサロンを始めたいと思います。よろしくお願いします。

今日は、テーマを毎回設定してやって来たのですが、ここ１月、２月と、今年度の学校評価アンケートに寄せられたご意見に対する回答をいろいろ、考えていて、それを学校だよりの形で出したばかりなんですが。質問や意見に答えたんですが、いつも、一方通行みたいな感じがしたので、私に聞いてみたいとか、学校に分かってもらいたいという事があるんじゃないかなと思って、今回はテーマは設けず、もし何か伝えたいことや聞いてみたいことがあるようでしたら、お聞かせいただきたいなあと。それが、また来年度以降の学校経営にも役立てて行けたらと思っています。

それと、学校のことだけじゃなくて、個人的に校長に聞いてみたい、というそう言うのでもかまわないです。

それでは、まず、参加していただいてる方に、簡単に自己紹介をお願いしたいと思います。こちらからお名前を呼ばせていただきます。Ａさん。

Ａさん　おはようございます。よろしくお願いします。２年生と、５年生に息子がいますＡと申します。よろしくお願いします。

川中子　よろしくお願いします。では、Ｂさん。

Ｂさん　おはようございます。６年生と４年生に子供がいるＢです。よろしくお願いします。

川中子　よろしくお願いします。では、Ｃさん。

Ｃさん　おはようございます。１年生に息子がおりますＣと申します。よろしくお願いします。

川中子　よろしくお願いします。Ｄさん、よろしいでしょうか。

Ｄさん　１年生、４年生、６年生に子供がいますＤです。よろしくお願いします。

川中子　はい。では、Ｅさんですね。Ｅさんは今、５年生と…。

Ｅさん　１年生です。よろしくお願いします。

川中子　よろしくお願いします。あと、副校長先生も入っていますので。

副校長　第三吾嬬小学校副校長の手山です。よろしくお願いします。

川中子　はい。では、もう１年がそろそろ終わりになるんですが、学校に何か聞いてみたいことや伝えておきたいことはありますか。「最近、こういうところどうなってるんですか？」とか、質問でも結構です。それでは、皆さん、顔も映っていますので、挙手していただいて。

Ｂさん　それでは。こういうコロナ禍が続いていて、本来「こういう教育がしたい」とかこういうことを子供たちに教えたいけど、どうしてもできなくて、モヤモヤしたことってありますか。と言うのも、もしそういうことがあれば、そういうときのために町会だったり子ども会だったり、友達同士だったりで実現できることがあればいいなと思っています。

川中子　ありがとうございます。今、言ってくださったことは、学校でも非常に問題になっているところですよね。おそらく、学校だけでなく、社会全体、世界中がそういうことに困っているんじゃないかなと思うんですが。コロナが始まる前には普通にできていたことが、全て制限されてしまっていると言う気持ちは強いと思います。

まず、マスクをして生活することになってしまっていますので、子供たちは表情が見られないような状況の中で生活しているのが長くなっています。例えば、音楽の授業では、歌を歌えない。リコーダーを吹けない。鍵盤ハーモニカもダメ。そういう、制限がかかっていますよね。ですから、マスクを外して、子供たちが楽しく過ごすことができるようになること。給食なんかもそうですねよ。みんなが、黙って、同じ方向を見て食事をしています。それまではなかったような状況というのが学校にはありまして。感染を予防するためにはやむを得ない、という状況が続いています。そういうのが、一日も早く取り除けるといいなと思うんですが。ああ、何か、ここまで続くと、マスクを外せる日というのは本当に来るのだろうか、と。心配になってきています。皆さん、そのあたりはどう思いますか。

Ｅさん　はい。すみません、私、マスクがすごく嫌いなんですね。顔を隠すのがすごく嫌いで。私は花粉症なんですけど、花粉症の時期でさえ、マスクは基本的にしないんですよ。ネットだと、日本人はこのまま行くと一生マスクを外せないんじゃないかと言われていて、世界だとアメリカもヨーロッパも、みんなマスクを外して、コロナ前に戻りつつあるんですけど、日本だけ逆走しちゃってて。子供にもマスクはさせたくないし、早く本当にマスクなしに（戻ってほしい）。私は、外ではマスクをしないんですよね。会社と電車の中以外では基本マスクはしていないので、はじめは私みたいな人がすごく少数だったんですけど、最近は道を歩いていると、結構マスクを外している人も結構いて、私みたいな人がでてきたなって思うんですけど。ずっとマスク？給食も会話なし。保育園も今マスクしろ、みたいな感じになって。子供の、今マスクをつけてる子たちが将来大きくなったときにどう影響が出るのかっていうのが、今ネットでもいろいろ言われてますけど。そこら辺をもっと議論してほしいし、マスクも世界と並んで外していく方向にしていってほしいなって言うのは、思います。

川中子　はい。ありがとうございます。Ｅさんとは、朝あいさつしているときよくお見かけしますけど。私もＥさんと、ほとんど同意見です。私も外ではマスクはしていません。みんな、自分だけしなくても大丈夫、ということではなくて、今、世の中ではどちらが正しいか、なかなか簡単には判断できないような事だと思うんですけどね。もちろん、人混みでは私もマスクはしますし、屋内ではまわりに人がいればマスクは必ずしている状態ですね。

実はマスクに関しては、コロナになる前から、子供たちの中で顔を隠したいという欲求からマスクをする子たちがいたんですね。その子たちが、どうしても顔を見せられない、という、まあ、恐怖症みたいになっていて。その子たちがマスクが外せるようになるといいね、っていうことは、以前から言われていたんですけど。今日本では全体的にマスクをして顔を隠しているということで安心感を得ている人がかなり多くてですね、まあ、国際的な調査の結果にも、日本人の自己肯定感の低さとこのあたりの心理的なものは関係があるのではないかなと感じています。子供たちが自分の顔を隠していないと生きて行かれなくなってしまう社会というのは恐ろしいなと思いますね。本当に危惧しています。だから、コロナで制限のかかっている活動も、なるべく感染予防はしながら、なるべくできる限りのことをやらせたい、そして一日も早くマスクなしの生活を取り戻したいなと思っていますね。

ただ、みんな心配している子供もいますし、心配している方もたくさんいるので、そのことについては配慮していかないといけないなと思います。自分はいらないから、だけではないですね。その時その時にどうしていくべきかは考えて行動することが大事で、非常に強く意識しています。

マスクのことなんかについては、他の方はいかがですか。Ｃさんは、お子さんはまだ１年生ですが、どうですか？

Ｃさん　そうですね、おっしゃるとおり、もう２年続いているので自分自身でも当たり前になっちゃってるところもあるので、逆にそこのところを疑う目を持った方がいいのかなと。当たり前じゃない、ってこと…。個人的には影響はそんなに感じてはいないんですけど、もしかしたら子供には何らかの影響があるかもしれないので、そういうところの配慮はしたいなと思いました。

川中子　そうですね。Ｄさんは、感染に関してはお詳しいので、予防についてはマスクは必要だとお感じだと思うんですが、いかがですか。

Ｄさん　そうですね。先程おっしゃるように、自己肯定感が低いという意味では、やはり問題にはなるかなと思いました。顔を隠したい欲求が出てきたりとか、あと、素顔を見たことがない…ような状況も発生していて、例えば、仕事でもあるんですが、マスクを取ると印象が変わったり。そういうこともあって、最終的には取りたいなと思っています。ただ、感染を予防するという観点では必要じゃないかと。今、私は濃厚接触者で。隔離中です。実際、マスクをしていてもなっちゃうときはなっちゃうんだなとも感じています。

川中子　そうですね。マスクが１００％感染を予防するとは誰も言ってませんからね。お医者さんたちもますくで１００％予防ができるとは言ってませんからね。マスクをしていると、飛沫が飛んだり受け取ったりはなくなると言う意味では非常に効果があるんじゃないかなと思います。今、オミクロン株というのになってから、子供たちもマスクはしていますが、結構うつっている状況で、普通のインフルエンザや風邪と同じような状況になってきてるかなと。ただ、そのマスクをしているおかげで、他の病気があまりないんですよね。普通だったらインフルエンザももっといっぱいはやっている時期なのにはやってなかったり、胃腸炎なんかも一回はやり出すとばーっとうつるんですけど、そういうのもマスクして、手を洗ってという生活が続いてますから、予防になってるかなと。また、ある方は、そういう無菌状態を作り出すことが、人間の体にとって本当にいいことなのかどうかは分からないと言っていますね。私も感じるところがあります。日本は、あまりにもきれいになりすぎているかな、と。体がちょっとした反応にも弱くなってしまうんじゃないかなと言うことも危惧しています。「しなやかで丈夫なこころとからだをもつ人」って言うのは、第三吾嬬小学校の目標の一つ。本当に、しなやかで丈夫な体

になるために、あまりにも無菌状態というのは、精神的にも肉体的にどうなのかなと思います。ありがとうございます。他にありますか？

Cさん　すみません、Cですけど。

川中子　はい、お願いします。

Cさん　コロナに関連して、子供のワクチン接種なんですが。接種券は届いているんですが。打つ打たないの判断は、エビデンスのない中でなかなか難しいなと思うんですけど。どういう判断基準にすればいいのかなと思っているのが一つと、学校の方でワクチンを打ったかどうかを把握する予定はあるのでしょうか。

副校長　私が答えましょうか。ありがとうございます。ワクチン接種をするかどうかは、学校が判断できるところではありませんが、今のところ、学校としてお子さんがワクチン接種をしたかしないかを把握するって言うことは考えておりません。ただ、ワクチン接種をする際に、学校をお休みする際には、欠席扱いとはしませんので。そういうところは区の方針に従って進めています。

Cさん　ありがとうございます。

川中子　ワクチンの問題も非常に難しいですね。世の中に、ワクチンを絶対打ちたいって言う人と絶対打ちたくないっていう人がいて、先日新聞におもしろいコラムが載っていたんですが。アメリカではワクチンを打つ打たない、コロナの対策に積極的な人と対策をしないことに積極的な人が、実は政治的にも分かれていて、民主党支持者と共和党支持者ではまったく反対になってしまうのだそうです。ですから、人間の考え方と行動は一致してくる部分があると思いますので、ワクチンの問題は非常に難しいと思います。ただ、オミクロン株のことでいうと、子供たちがうつり始めていて非常に心配だと思うんですけど、もうかなり進んでしまっているので、これからワクチンを打って間に合うのかな？というのはありますけど。その次のオミクロン、新しい「ステルスオミクロン」とか、別の種類のやつが出てくるんじゃないかという話もあるので、その時ワクチンが効果があるのかどうかは…。まだ、分からないですよね。ここが非常に難しいところで、私も２回ちゃんと夏には摂取しましたけれど、その後、かかっているのかかかっていないのかも分からないし、それが効果があるのかないのかもわからないし。かなり、ワクチン打った人でも今回のオミクロン株にはかかっている人はたくさんいて…。ワクチンの効果が落ちたからかかってしまっているのか、ワクチン自体に効果がなかったのか、それともワクチンを打っているせいでそんなにひどいことにならなかったのか、というのもわからないので。自分がやっておいた方がいいと思うことはやった方がいいと思います。お子さんの方は、体の影響も強く出ると思うので、とても心配だと思います。お医者さんもすぐにやるべきだと言ってる方ばっかりじゃないですよね。お子さんに関してはかなり慎重な意見が多いんじゃないかな。うちの学校の子たちで、高学年の子は摂取している子はいるんですけど、その後熱がかなり高く出たりということもあるようなので。何か、オミクロンにかかった子たちが、一気に３９度とか出るんですけど、一，二日で平熱に戻っていて、ワクチン打って３９度の熱が出たという子もいると、何か同じ症状みたいだなって。子供の反応は。何がいいのか、本当によく分からない。ただ、今後、どんどん変異をしていくと思いますので、ワクチンがどれだけ有効かっていうこと。それからそうやっている内に、コロナの薬ができるかなという期待もありますね。薬ができたら、インフルエンザと同じような感じになっていくんじゃないかなと思いますけど。ありがとうございます。Aさんは何かありますか？

Aさん　そうですね。校長先生に聞きたいこと、いっぱいあって。校長先生が保護者会で海外の学校でも教えていたことがあるという話を聞いて、そういうことも聞きたいなと思っていて、いろいろ聞きたいなと思っているんですが。さっき、自己肯定感っていうことが出たので、ちょっとそのことについて伺いたいなと思っています。けっこう、日本の学校って、海外は分かりませんが、一つはきっちりしていて。例えば、これ持ってきちゃいけない、あれ持ってきちゃいけないとか。髪型とか、中学校ではツーブロックはいけないとか、そういう縛りが結構ある中で、みんな真面目にそれに従おうとすると思うんですよね。そうすると、ちょっとそこから出たりすると、それはいけないんだ！と、受け入れられない状況になってしまう。そういうのが、多様性をと言われている中で、ちょっとでも自分と違うものを排除してしまうという、そういう風潮になりかねない、なっているんじゃないかなという思いがあって…。例えば、学校に行かれないという方も結構いる中で、ちがうことを、マイナスな、ネガティブな目で見てしまうとか。そういうことがあるけれど、いろんな人がいていいんだよという…。そっちもうけいれていかなければいけないって言う中で。これは私の意見なんですけど、例えば、髪型とか、ツーブロックだっていいと思うんですけど、そういうので…。日本人は、人と同じじゃなければいけないというのがあるから、「おれは、これがいいと思うから、これで来てる」みたいな、セルフプロデュースじゃないですけど、こういう風にしたら、みんなからこういう風に見られるんじゃないかなとか。こうしたら、自分はこれがかっこいいなと感じたことを、例えばそれで学校に言ったときに、「ああ君、それいいね。おれはこうだけど。」みたいに、その子の個性みたいな、その子がしたいものをみんなが受け入れられるようなそういう世の中になってほしいなとおもって、そういうのってどう思われるかなって伺いたかったです。

川中子　ありがとうございます。今、Aさんが話してくださったことについては、今、ようやく日本でも話題になってきて、みんなでそういうのを大事にしていかなくちゃいけないねって変わってきているんじゃないかなと思います。例えば、そういうのが世論で話題になってくると、墨田区では、例えば、議員さんたちがそこら辺のところに気が付いて、「墨田区ではどうなっているんだ。学校の校則はどうなっているんだ？」と、教育委員会に言うらしいんですね。そうすると、教育委員会が学校にどうなっていると調査をするわけです。簡単に言うと、中学校の方が校則問題は大きな問題になっていますので、校則について見直しをしましょう、というのが区全体の流れになっていて、特に今年度は積極的に見直しをしましょう、ということで、学校運営連絡協議会や町の人に、どういう風に校則を変えていくというのをインフォメーションして、生徒・児童とともに、納得のいく校則に作り替えてくださいという、簡単に言うと、命令が下りました。それを３月中までに、各学校は「うちの学校は今までの校則をこういうふうに変更しました」とホームページで公開するようにとなってきています。だから、かなりその辺は進んできているかなと思いますね。制度的に、変わりつつあるかな。中学校の方は、制服がありますので、男の子はズボン、女の子はスカートというのが当たり前だったんですけど、女の子がスカートじゃなくてズボンを選択できるように多くの学校で変わってきています。区内の中学校でも始まっています。男の子がスカートはいてくるのも自由なはずなんですが、それはあまりいないようです。選べる、という感じになってきている。そう考えてくると、制服そのものはなくなってしまってもいいんじゃないかなという考え方もあります。実際、そういうのに取り組んでいるところもあります。

私自身はもともと中学校の教員で、それこそ、生活指導主任なんていうのを長年やっていました。私は、ガチガチしめるのがあまり好きではないので、生活指導主任をやりながらも、あまり髪型とか服装は騒がなかったですね。むしろ、それよりも大事にしなければならないことがあるんじゃないかな、ということをもっていました。今、校長になって、ある程度学校を一つ任されていますから、ある程度こういう方針で行きたいというのは、かなり権限が与えられています。ただ、私が全て決めて、これをこういう風にしてください！って、先生たちに命令してやらせているわけではないので、もちろん先生たちの意見も取り入れながら教育的効果というのを一番に考えて判断しています。第三吾嬬小学校は、子供たちは私服の学校ですから、いろんな格好してきている子がいます。それから、子供たちの中には、いろんなお子さんがいます。日本の子だけじゃありません。いろんなお子さんがいます。そういう意味では、多様なお子さんたちが集っている学校で、私はとても素晴らしいなと。そこが大好きなところの一つです。そこは、本校の強みだなと思っています。ああやって、一緒に育っていく中で、子供たちはやっぱりともに学び合っている部分というのがあると思うので、自分がこうしたいというのが難しいというのは、私たちの中に根強く残っていますよね。最近よくある言葉、「同調圧力」という言葉があって、日本ではそれがとても強いのではないか。人と違うことをしていると、変な人と思われて、昔で言うと「村八分」にされるような。そんな文化はまだ残っているんじゃないか。私もそれはまだ残っていると思います。ただ、それを変えていくのは、教育の力以外にないんじゃないかなと私は思っています。だから、第三吾嬬小学校は「自ら学び、考え、行動する人」である必要があるし、「思いやりをもち、共に生きる人」というベースの上で進めていきたいなと思っています。ことあるごとに、子供たちにはそういう話をしているのですが、子供たちは話を聞いただけで理解できたら世話ないわけで、そんなうまくはいかないわけですよ。いろんな経験をしながら、そういうことを考えていくんですけど、

その時に指針の一つとして、私、本校の教育目標は非常に重要な意味をもっているなと思っています。そこに合わせて考えていけばいいのであって、髪の毛がどうだとか、長さが、分け方がなんて、本当にどうでもいいことだと思うんですよね。特に、身体的な問題については、その人その人によって、全く考え方も感じ方も違うんですね。この寒い時にですね、半袖・半ズボンで登校してくる子もいるんですよ。その子たちは、寒くないのかと思うんですが、寒くないんでしょうね。寒かったら、着てくるでしょうから。その辺の感覚の違いというのは、自分を判断基準に考えたら、「お前は変なやつだ」ということになるんだけれど、自分を規準にすることはできないってことは、非常に強く感じています。そして、それを子供たちが理解していく事って言うのは、とても大事だな、と。あなたはそうかもしれないけど、そうじゃない人もいるっていうことを理解させるのは、やはり教育の力だと思います。それは、学校だけではできないので、保護者の方、地域の方と一緒になって、みんなが同じ理想的な考えを共有できたらいいんじゃないかなと思います。私はそういう意味で子供たちに直接教育しているのと同時に、保護者や地域の方にそういうメッセージを発信していきたいなと思っています。それは、もう「僭越ながら」ということで、お前にそんなこと言えるのかと言われてしまうかもしれませんが、いかがですか？学校はこう考えているのですが、どうですか、というメッセージはこれからも発信していきたいなと思います。だから、Ａさんみたいな方がどんどん声を上げていただくのが、非常に重要なんじゃないかなと。だから、本当にありがたいと思います。どうもありがとうございます。それでは、後から来たＦさん、Ｇさん。自己紹介お願いできますか。

Ｆさん　４年と１年に子供がおりますＦです。本日は遅くなってしまって申し訳ありません。

Ｇさん　１年生と、４年生と６年生に子供がいるＧです。遅れてしまってすみません。よろしくお願いします。

川中子　はい。よろしくお願いします。今、始まってから、コロナ禍で子供たちにさせてあげたいことは何ですか、という質問。それから、マスクのことについてお話しして、少しワクチンのことについてのお話が出て、今の校則のことや、人との違いをどう受け止めていくかという話をしていました。そのほか、ご質問やご意見など、ありますか。Ｆさん、Ｇさんからは何かありますか。なかなか、今更聞けない質問とか、川中子への個人的な質問でもかまいません。

Ｆさん　校長先生とお話しさせていただくの初めてで、本当のところかなり緊張しているんですが！　お子さんが４人いらっしゃるって言うことで、校長先生の４人のお子さんの。私も３人、Ｇさんも３人子供がいまして、大人数というか、その４人をどう育てていったのか。４人がそれぞれ個性があると思うんですけど、どのように教育方針というか、お父様として、育ててきたのかっていうのをちょっと教えていただければと思います。

川中子　はい。非常に、答えづらい質問ですが…。えー、私は、確かに娘が４人おります。一番上が３０歳、次が２８歳、次が２４歳かな？今１９歳が一番下です。私は、弟が一人いて、男兄弟の中で育ったものですから、自分が結婚した後、子供が生まれるときには男が生まれるかなと思っていたのですが。最初の子が女の子が生まれて。二人目の生まれたときは一人目とおなかの出っ張り方が違うので男だと言ってたんですが、女が生まれて。三人は何となく女の子が生まれて、四人目は、私は海外に赴任することが決まっていたときで、来年の４月から海外です、どこの国に行くかは分かりません、という時に、前の年の夏あたりに分かったんですけど、困ったなあ、妻とも本当に真剣に悩みましたね。三番目の娘が子育てが非常に難しくて、２歳になるまで夜泣きがひどくて、妻は２年間くらい睡眠時間が２時間という日が続いて、ノイローゼ気味になっていました。そんなこともあったので非常に悩んだのですが、せっかくだからと。お姉ちゃんたちも協力するから、ということになって。四人目はドイツで生まれました。ナイチンゲールって知ってますかね。ナイチンゲールが看護の勉強をした大学病院で出産をして、まったく言葉が通じない中で妻は１週間くらい入院して、何かよく分からないものを食べさせられて、それで退院した感じでしたね。まあ、３歳になるときまで向こうで育って、ですかね。

　で、私自身は子供たちの教育、子育てって言う意味では、はっきり言うと…まあ、何もしてませんでしたね。はい。今、昭和型の父親で、まったく何も関わってなかったかな、と。今、子育てはこうあるべきだという話をしたりすることもあるんですが、とっても恥ずかしくて困っているところです。妻が子育てしたかな、というところです。子供たちが、お父さんに対して相談したりと言うこともあまりなかったですね。受験も何回も経験しましたが、そういうときも私には相談してこなかったですね。

　子育てで一番大変だったのは、就職活動です。これが一番きつかったですね。死んじゃうかと思いました、娘たちが。非常に就活っていうのは厳しいんだなって思いました。私自身は教員になっちゃったので就活ってやったことがないんですね。妻も、もう結婚してすぐ仕事も辞めちゃってましたので、就活って言うほどの経験はなかった。親が二人とも経験がなかったので子供たちの就活というのを経験したとき、上の娘は４５，６キロあったのが就活中に３０キロ台まで体重が落ちて、本当に死んでしまうかと思いました。３番目の娘も、ちょうど半年くらいカナダに留学して、パンパンになって帰ってきて、それが８キロ、９キロくらい痩せましたね。就活の期間だけで。本当にそれはつらかったですね。大学の方はどんな指導してくれているんだろうと。娘も私の方にはそういうのをまったく相談してこないので、心配しながらもこっちも口出せないという感じでいたんですが、三番目の娘の時は、さすがに心配になって、就活に使っているエントリーシートというのが、まあ、簡単に言うと履歴書見たいのがあるので見たら、大学の方ではこんなのがいいって。それこそさっきの同調圧力ですよね。こういうのがいいっていうのがあるみたいで、アルバイトではリーダー的な役割をしていましたとか書くようになっているとか。私はそれを読んだとき、「ばかじゃないの？こんなの書いても何の意味もないよ。こんなのみんな同じこと書いてくるだろう。お前はいいところがあるじゃないか。例えば、小学校から大学まで一日も休んでない、とか。ドイツの幼稚園に通っていた、とか。」という話をして。そういうのが一切書かれてないんですね。大学の方では、こういう事書きなさいっていう指導をしているみたいなんだけれど、まあ、大学生ですからたいした指導はしていないでしょう。受かる子は何社にも受かる。受からない子は何回受けても受からないという状況があるみたいです。さっきのＡさんの話じゃないですけど、今、やっぱり自分の良さって言うのをちゃんと言えるっていうのは、ちゃんと受かっているんだと思うんですね。そうなってくると、個性を大事にしていってやらなければいけないし、自己肯定感がたかくないといけない。自分って、けっこういいんだ、という満足感を持っている子じゃないとだめだと。三番目の子は、どっちかというと、自己肯定感の大変に低い子で、自分がだめだと思っているところが強いんですね。その、長女と三女の就活のことはつらかったですね。人生が変わっちゃうくらいに大変な経験でした。で、２番目は学校の先生になっちゃったので就活の経験はしていなくて、４番目は今大学入ったばかりですから、就活は経験ないんですが。この、４番目はやたらと自己肯定感の高い子で、何でも自分が一番いいかなって思っているみたいで。例えば、最近オリンピックでスケートとかやってますよね。スケートなんてやったことないくせに、「私は絶対スケートできるはず。きっとこういう風に滑れる」なんて、まったく疑わないみたいで、鏡見ながら１時間でも２時間でもうっとりしているタイプです。なんでこうなったのかは分かりません。全く。４人子供がいますが、それぞれ全く違います。

　子育てって言う意味では、私は本当に何もできなかったかなと思うんですが、一つ言えるのは、あれかもしれないんですけど…。私は、あの…、妻を…、愛していて、妻と仲良くやってきたかな。そんなところは、子供たちが安心して暮らすことができていたかなというのは、ちょっと感じますかね。それは一つあるかもしれません。

　本当に、答えになってないかもしれませんが。ちょっと恥ずかしい質問でした。ありがとうございました。

Ｆさん　校長先生ありがとうございました。

川中子　まったく参考にならないですね。

Ｆさん　いえいえ。素敵なお言葉も頂戴できて。夫婦円満。ありがとうございました。

川中子　さあ、もうあまり残り時間がなくなってきましたが、他いかがですか。

Ｇさん　あの、いいですか。

川中子　はい、お願いします。

Ｇさん　個性のことで、ちょっとお伺いしたいんですけど。うちの６年の娘が、結構はっきりした正確でして、ダメなものはダメと伝えないと気が済まない性格なんですね。友達と遠い公園に行って、他の学校の子が何かいけないことしていたら、それも注意したくなっちゃう性格で。で、けんか、までは行かないんですけど、全然知らない子と口げんかして帰ってきたりですとか、おんなじクラスの子でも絶対注意しないといけないと思っているみたいで口げんかして帰ってくるですけど。このご時世、危険がいっぱい潜んでいるというか。知らない人に注意して何か刺されちゃったみたいな事件も多いので、どうアドバイスしていいか分からなくて…。言いたいことは分かるし、あってるのも分かるんだけど、ちょっと気をつけてねみたいに。どういう言葉がけをしたらいいのか悩んでまして。主人が単身赴任なもので、毎日相談できる環境でもなくて。電話ではちょっとずつ報告はしたりしているんですけど、主人は何せ同じような性格なので、放っておけばいいんじゃないかみたいな感じなんですけど。私としては、心配なところがあって。どうしたらいいか、

アドバイスいただけたらと思います。よろしくお願いします。

川中子　Gさんの娘さん、６年生のクラスで見ていて、確かにはっきり。いろんなことがんばっているなと言う感じがします。ただ、Gさんが心配されたような感じのことが、ずっと続いているということはありませんし、お嬢さんはお嬢さんで、その場その場に合わせていろんな事を判断しながら、言うべきか言うべきじゃないか、いろんな事を考えながら行動はできていると思いますよ。まあ、こういうのって、人からアドバイスされてうまくいくってことはほとんどなくて、経験の中から学んでいくものだと思いますので。世の中にいろんな人がいて、お嬢さんみたいにはっきりと正しいことを正しいと言い切ることができる人もいるし、正しいとは思っているけれどそういうことははっきりとは言えない人もいるし、それから、全然気が付かない人というのもいますね。世の中、いろんな人がいて、いろんな事を言ってくれることによって、社会が動いていくわけですから、彼女には彼女の「役割」があるんですよね、この世界の中で。それはとっても大事なことなので、大事にしてあげたらいいと思います。お母さんとして、何か、トラブルが…必ずあると思います。摩擦が生じやすくなりますからね。悩んだりしていることがあったら、話を聞いてあげる、それからでもあなたは間違ってないよね、ということを認めてあげる。そういうことが大事なんじゃないかな。その中で、そういう経験をしながら、子供たちは今何をすべきか、どういうことを言うべきか言わないでおくべきかということを学んでいくと思います。

やっぱり「思いやりをもち、共に生きる人」にならないといけないので、思ったことをそのままストレートに伝えることが正しいとは限りませんからどのように伝えたらいいかということは学んでいかないといけないと思い

ますが、私はやっぱり、経験の中で学んでいくことだと思うので。うん、あの子は明るくて。大丈夫だと思います。もし、万が一、傷つくよう事が出てきたときに、話を聞いて励ましてあげたらいいのかなと思います。でも、きっと、あの子のおかげで、考えさせられたり、ハッピーになったりしている子がいると思いますよ。素敵なお子さんです、本当に。

Gさん　ありがとうございます。

川中子　ありがとうございます。では、そろそろ、お時間ですが、最後に私の方から、みなさんにご紹介したことがあります。

実は、思いやりのことをずっと考えているんですね。去年、歌を作って、合唱団に歌ってもらったのをホームページでも紹介しているんですが、その歌詞の中に、「今の私たちに必要なのは、自ら学び、考える力　そして正しいと信じられたなら、勇気を出して行動にうつそう。今の僕たちに必要なのは、しなやかで丈夫な心と体。たとえ向かい風が厳しいときでも、たやすく折れないしなやかな強さ」という歌詞があります。その次に、「そして何よりも大切なことは、思いやりをもち、共に生きる人になること」っていう歌なんですね。自分で言うのも何なんですが、とってもいい歌だな、と！（笑）秋だったかな、ある４年生の男の子に、その歌詞が間違っていると言われたことがあったんですね。「何よりも大切なのは、思いやりをもち、共に生きる人になることじゃない。」と。すごいことを言うなと、感動してしまったんですが。「じゃ、何が一番大切なことなの？」と聞いたら、健康かな、と答えていました。まあ、この三つの目標というのはどれも大切で、こっちの方がこっちより大切だと言えないもので。ただ、やっぱり、ベースのところに思いやりがないとなあと思います。

ただ最近非常に強く思っているのは、思いやりが同調圧力になってしまうと…。つまり、自分に対して不都合なことを言ったりやったりしている人、例えば、武力で他の国を攻めるとか、最近ありますよね。その時に、武力を使うのもしょうがないようね、というのが思いやりなのかと勘違いしてはいけないと。思いやりをもちなさい、といって、いじめられた子に、いじめっ子のことも分かってあげなさいという考え方もありますよね。被害者から、なぜ加害者ばかりかばうんですか、というのはよく言われることなんですね。そういうのを考えたとき、思いやりって、間違えたらいけないなと思います。

その思いやりのことを考えていたときに、ブレイディみかこさんと言う方が、「僕はイエローでホワイトでちょっとブルー」という本を書いて。以前にもちょっとお話ししたんですが、その本の中でエンパシーという話が出てきて、「他人の靴を履いてみること」というお話があったんですけど。この本はべつにそのことだけを書いたものではなかったんですけど、出版されるとその部分だけがすごく話題になって、どこに行ってもブレイディさんはその話ばかり聞かれるようになったそうで。あるオンラインのカンファレンスに私も参加していたんですが、ブレイディさんがそのエンパシーの話をしていて、どうしたらエンパシーを身に付けることができるかという話題になったとき、例えば、と前置きして、「本を読んでみるとか。例えば、『ワンダー』とか。」とおっしゃったので、すぐにその「ワンダー」を注文しました。

アメリカの作家…。作家でもなかったのかな？この本を書いて作家になった人が書いた「ワンダー」という本で、R.J.Palacio さんという女性が書いた本ですね。この「ワンダー」という本は、この男の子、名前はオーガストといいますが、が主人公なんですけど。この子が生まれながらに遺伝性の、顔に障害があって。最初に出てくるのが、「あなたが『ひどい顔』というのを想像してみてください。僕の顔はそれよりももっとひどいのです。」というのが１ページ目に出てくるんです。この男の子が１０歳の、５年生になる男の子で、この子を巡って周りの人たちがどんなことを考えているのかというのが書かれている本ですね。チラチラ、と読み始めたら、これがもう本当におもしろくって！　元は英語の先生ですから、英語で読んだんですが、本当におもしろくって。土日二日間、本から離れられなくなるくらいで読んだんですが、とってもいい本でした！　調べたら、学校の図書館にもちゃんと入っていました。日本語の本ですけど。５年生、６年生、中学校１年生くらい推奨の本ですが、子供たちに読ませるのもそうなんですが、私たちが読んでもとってもおもしろいなと思って、皆さんにもご紹介です。子供たちにもおすすめしようかなと。

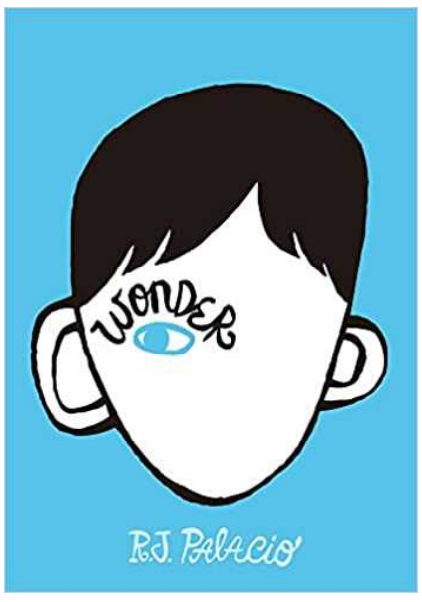
今日もあるお子さんのいじめの相談を受けたんですけれど、そのいじめの相談をうけたお子さんの話は、この本の中に全て書かれていました。そして、そのいじめをどういう風に克服したらいいかというヒントもこの本の中に入っています。

この本と、もう一冊。続編が。もともと続編は書くつもりはなかったらしいのですが、この中に出てくるいじめっ子の代表でジュリアンという子が出てくるんですが、この「ジュリアン」が「いじめっ子」の代名詞みたいになって。この本は爆発的に売れたらしく、アメリカでは社会現象にまでなったようで、アメリカの学校には「ジュリアンにはなるな」なんていうポスターまで作られるような状態になったそうです。著者は、ジュリアンのことをそんな子として書いたつもりはなかったので、その誤解を解くために、続編を書いたと言うことで。そちらも読んだんですが、とってもよかったです。本当に感動しました。ぜひ、５年生くらいのお子さんがいたら、読ませていただきたいし、皆さんにも読んでいただけたらなと思って紹介させていただきました。そして、本当に思いやりとは何なのか。そのために私たちは何をしていかなければならないのか。永遠のテーマですけれど、第三吾嬬小学校でも本当に大事にしていきたいなと思っています。

それでは、本当に今日は、朝早くからご参加いただきましてありがとうございました。今年度のサロンは今日でおしまいにしようと思っています。次回は保護者会もありますのでそちらでご挨拶します。今日は、ありがとうございました。

それから、もし、聞きたいことがあるという時には、いつでも校長室まで来てください。よほどのことがなければ、お相手しますので。校長室は毎日、子供たちも気軽に来て、ソファに偉そうに座って、いろいろやったり、楽しくやってますので、保護者の皆さんもぜひお話を聞きたいなと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、これで失礼します。ありがとうございました。



（三吾小図書館にもあります！）